



参加候補者調査記録

ふりがな	よしなが るな
氏名	吉永 瑠奈
生年月日	2007 年 6 月 8 日(16 歳)
願い	敬愛する占い師 天法寺ジュリエッタの名誉を回復したい

記録

吉永瑠奈は、占い師 天法寺ジュリエッタに傾倒する学生。
中高一貫の進学校に通っているが、周囲に聞き取りをした印象では、その評判はあまり良くない。
その理由の半数は、周囲との不調和を意に介さない派手な髪色。
それ以外は、いずれも彼女と関わったことのある生徒たちの言だが、
彼女の性格や趣味嗜好を批判するものが多い。

吉永が敬愛する天法寺ジュリエッタは、私が調べた限りではスピリチュアル系の詐欺師である。
主な活動は、配信やメッセージ上での占い、霊視、オリジナルグッズの販売など、ネットを拠点としたもの。それらはどれも高額で、顧客には著名人も多いということだが……そのあたりの事実確認は、今回の調査の主旨ではないため省略させてもらった。

本調査にて重要なことは、天法寺は少し前にインチキを暴露され、表舞台から姿を消しているという点である。きっかけは、「霊の声が聴ける」「霊を呼び出せる」と謳って販売していた霊能グッズが、検証畑の人間によって解析され、まったくのデタラメだと糾弾されたこと。非スピリチュアル界隈から激しい非難を浴びた天法寺は、その後ネットから姿をくらませた。

とはいえ、天法寺の信者（コンタクトが取れた人物は、そうとしか言いようのない異様な雰囲気を持っていたため、こう呼称させてもらう）は、健気にも天法寺の無実と帰還を夢見ているようだ。

「グッズが効果を発揮しなかったのは本人の魂が汚いせい！」
「居場所を荒らされて避難せざるをえなくなった先生かわいそう」
「早く戻ってきて！」

まあ終始このような調子である。

天法寺は、現在すべてのアカウントを消去しており、彼女の活動や信者との交流がどんなものであったかはハッキリと知れない。しかし、信者の盲信っぷりや、命を賭してでも彼女を救わんとする吉永の行動を想えば、よほど優しく言葉巧みな時間があったことは間違いないだろう。

上記までで調査を切り上げようとしていたところ、面白い話が聞けた。

吉永は、どうやら学校でいじめにあっているらしい。

きっかけは、現在通う学校へのコネ入学。

大病院で医者を務める吉永の母は、いわゆるエリート一家の出身。

娘にも名門校を受験させるが、吉永の当時の成績では合格は難しかった。そこで、老舗企業の社長であり、伝手を多く持つ祖父に口添えを頼んだようだ。

結果、吉永は合格し、現在の学校に入学する。

しかし、その情報がどこから……まあ教員か関係者が口を滑らせたのだろうが、吉永のクラスメイトに漏れた。そして、それだけが理由か定かではないが、とにかくそれをきっかけに、吉永はクラスカーストの高い生徒たちからいじめを受けるようになった。

この情報を教えてくれたのは、いじめに拒否感を覚えながらも、見て見ぬふりでかわしてきた一部生徒たち。彼らの話によれば、いじめがあからさまに、長期にわたって続いているにもかかわらず、教員たちは完全に無視を貫いているようだ。名門校ゆえに、加害者たちの親が怖いというのはあるのだろうが、それにしても、吉永が受けたという苦痛の数々を考えると、実に愚かな判断だと断じざるを得ない。

吉永の容姿がガラッと変わったのは、入学2年目のこと。

おそらく、この頃 天法寺に出会い、傾倒していったのだろう。

吉永は、校内でも宗教勧誘じみた言動を繰り返し、陰では彼女に手を差しのべていた生徒たちにも距離を置かれている。

「先生に視てもらえば、全部うまくいく」「幸せになれる」「だから占ってもらおう」

吉永のそんな勧誘行為は、すぐに教師に見とがめられ、注意を受けたことで沈静化した。

しかし、残念なことに、彼女がこのようにおかしくなっても、いじめは変わりなく続いたようだ。

休まず学校に通い続ける吉永も相当だと思うが……。

家族の介入がなかった点を見るに、母親は吉永の異常に気付いていなかったのだろうか？

それとも無視？

わかるのは、吉永が自宅の高層マンションに、ほとんど一人きりで住んでいたということぐらいである。父親は幼い頃に離婚しているということだったが、調査中にその気配を感じることはついにできなかった。

また上記までで調査を終わらせようとしていたのだが、最後にふと SNS を徹底的に洗ってみたところ、彼女のものと思われるアカウントを見つけることができた。（この調査書を仕上げている頃には消されていた。どうやら、運よく消去直前に滑り込みで見ることができたらしい）

それを見るに、彼女はインチキ騒動を機に、天法寺に騙されていたことに気がついていただろう。

救いの神と信じて、敬愛、盲信してきた「先生」は、ただの金目当ての詐欺師だった。

愛憎に満ちた言葉の数々は、これまで彼女を探ってきた私をなんともいえない気持ちにさせた。

そこに記された言葉が吉永の本音とすれば、彼女はただの狂信者でなく、もっと複雑な精神と願いの持ち主なのかもしれない。だとすれば、彼女の本当の願いは……。正直、実際に会って話を聞いてみるのが楽しみな少女である。

以上で、吉永瑠奈の調査報告を終える。

彼女のまっすぐな信仰心、また秘めた意志や精神力は、シラノの器にふさわしい強さを持っていると私は判断した。参加者として戦う彼女は興味深いと思う。ぜひご検討いただきたい。

【追記】

本日、吉永と顔を合わせた。

彼女の本当の願いは、「いじめっ子を殺してほしい」。

そして、彼女がそう思うようそそのかした「恩人」として天法寺の名をあげ、人々に叩かせることで「先生」を徹底的に苦しめること。

「そのためならなんでもする」と、彼女は静かに言った。

天法寺に騙されたことを自覚し、復讐を望んだとき、
吉永は、自らの手でいじめっ子を殺し、天法寺を貶めようと考えていた。
そして、人を殺めてしまった許されない自分は、
その末路を見届けたのち、ひとり命を絶つのだと。

しかし、本ゲームの応募サイトの存在を知ったとき、
「これなら、自分の手を汚さなくていい。

それなら、死なないでいいかも。生き直せるかも」
そんな希望を抱いたそうだ。

彼女は、撮影などがあったことから、本ゲームが衆目に触れるものだとすでに察しをつけていた。
そのうえで、これからは天法寺の信者を演じ続けるらしい。
それは苦痛ではないのだろうか。
だが、自身の計画を語る少女は、年相応に朗らかで楽しそうであった。